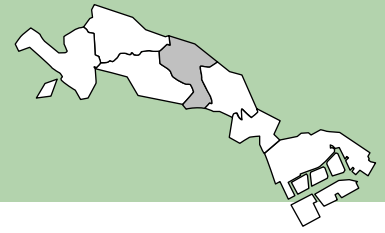


第1章

計画策定にあたって

1

高津区の特徴



(1) 高津区の概況

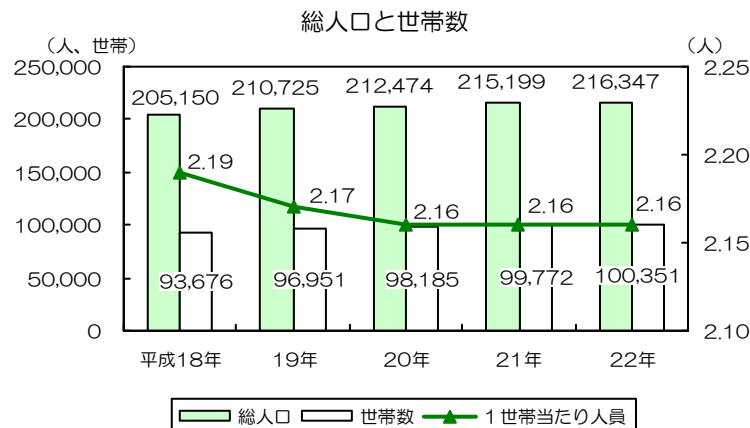
- 高津区は細長い市域のほぼ中央に位置し、江戸時代より交通の要所として発展し、早くから文化が栄え、歌人・岡本かの子や陶芸家・濱田庄司、名誉市民・岡本太郎など多くの芸術家や文化人を生み出しました。
- 大山街道やニヶ領用水、多くの神社や橘樹郡衙（たちばなぐんが）推定地など、豊富な歴史的・文化的資源に恵まれているとともに、多摩川崖線の斜面緑地、橘地区の農のある風景の広がりなど、多様な環境資源が存在しています。
- 商業ビル「ノクティ」、駅前広場、ペDESTリアンデッキ「キラリデッキ」等、市の副都心として、安全で快適な都市空間が整備され、商業地の核としても定着しています。

(2) 高津区の現状

① 総人口と世帯数 <人口・世帯数は増加、1世帯当たり人員は横ばい>

高津区の人口と世帯数は年々増加し、平成22（2010）年9月1日現在で216,347人、100,351世帯となっています。

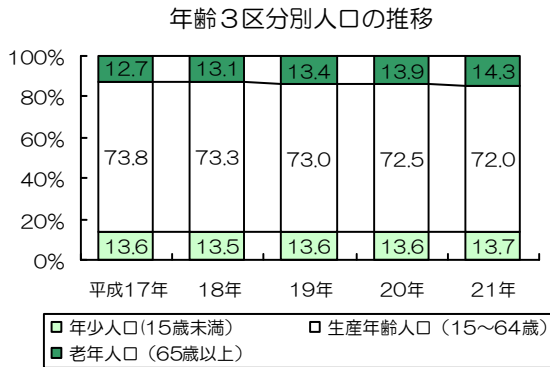
また、1世帯当たりの人員は平成18（2006）年から20（2008）年にかけて減少し、その後は横ばいとなっています。



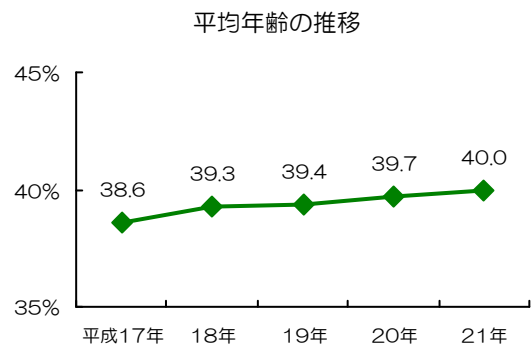
資料：「川崎市の統計情報 川崎市の世帯数・人口」
（各年10月1日現在、平成22年は9月1日現在）

② 人口構成 <老年人口が増加>

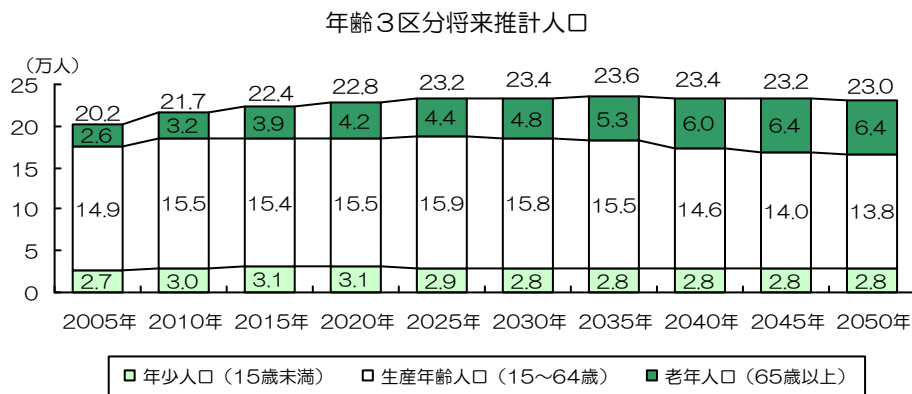
高津区の人口を年齢3区分別人口の推移をみると、生産年齢が減少し、老年人口が増加しています。年齢3区分将来推計人口では平成47（2035）年をピークに人口減少過程に移行すると推測されていますが、老年人口は増加傾向です。また、区の平均年齢は平成21（2009）年に40.0歳と徐々に高齢化しつつあり、一人暮らし高齢者数も増加しています。



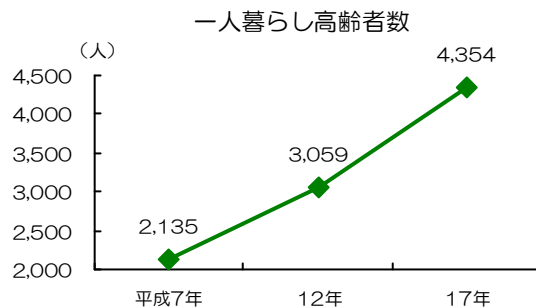
資料：「川崎市の統計情報 川崎市年齢別人口」



資料：「川崎市統計書 区別年齢各歳別人口」



資料：「川崎市総合企画局 第3期実行計画の策定に向けた将来人口推計について」

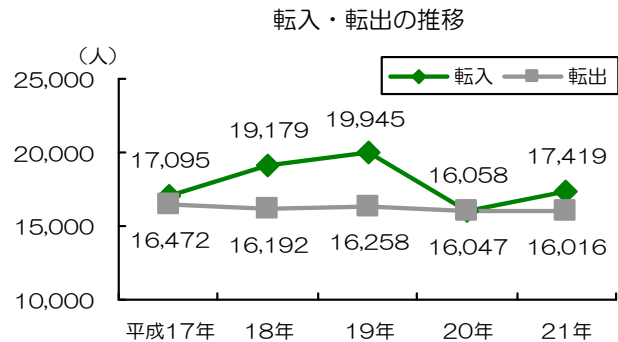


資料：「国勢調査」

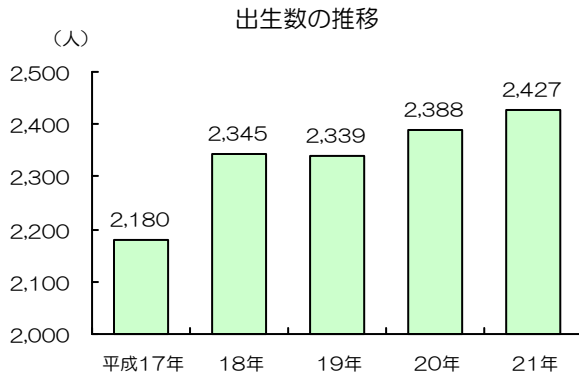
③ 人口動態 <転出よりも転入が多い>

高津区の人口は、転入が転出よりも多い状態が続いており、平成21（2009）年には1,403人の転入増でした。

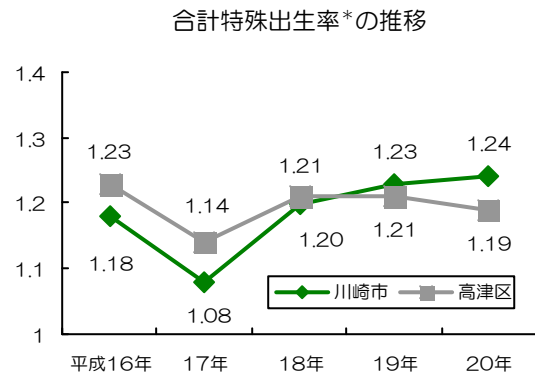
また、出生数は、平成17（2005）年から18（2006）年にかけて増加し、その後もほぼ横ばいですが、合計特殊出生率は平成18（2006）年以降減少傾向です。



資料：「川崎市の統計情報 人口動態」



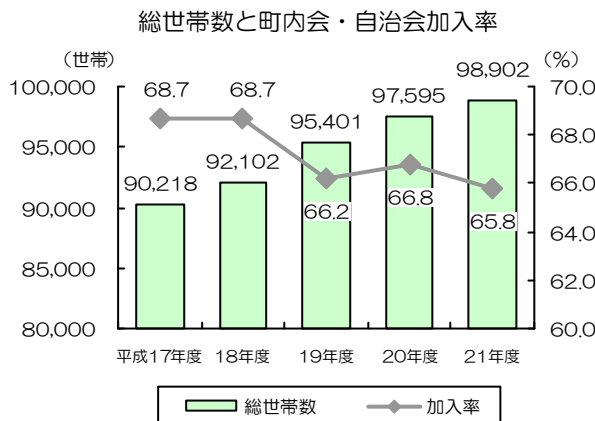
資料：「神奈川県衛生統計年報」
(平成21年は神奈川県人口統計調査報告による)



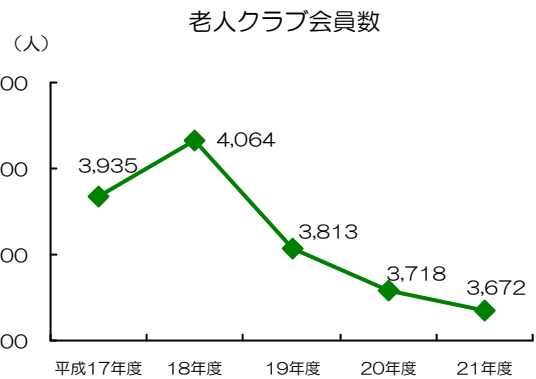
資料：「神奈川県衛生統計年報」
*人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示します

④ 町内会・自治会及び老人クラブへの加入率（数） <地縁団体加入率は減少>

高津区の総世帯数は増加していますが、町内会・自治会への加入率は減少しています。また、老人クラブの会員数も平成18（2006）年度をピークに減少しています。



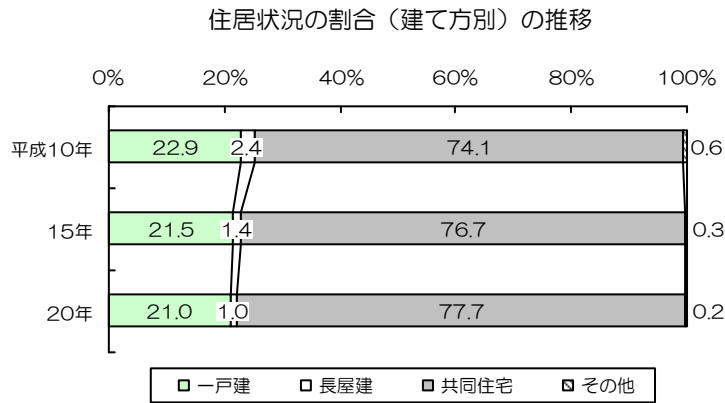
資料：「川崎市統計書 住民組織加入状況」



資料：「川崎市統計書 老人クラブの状況」

⑤ 住居の状況 <共同住宅に住んでいる人が多い>

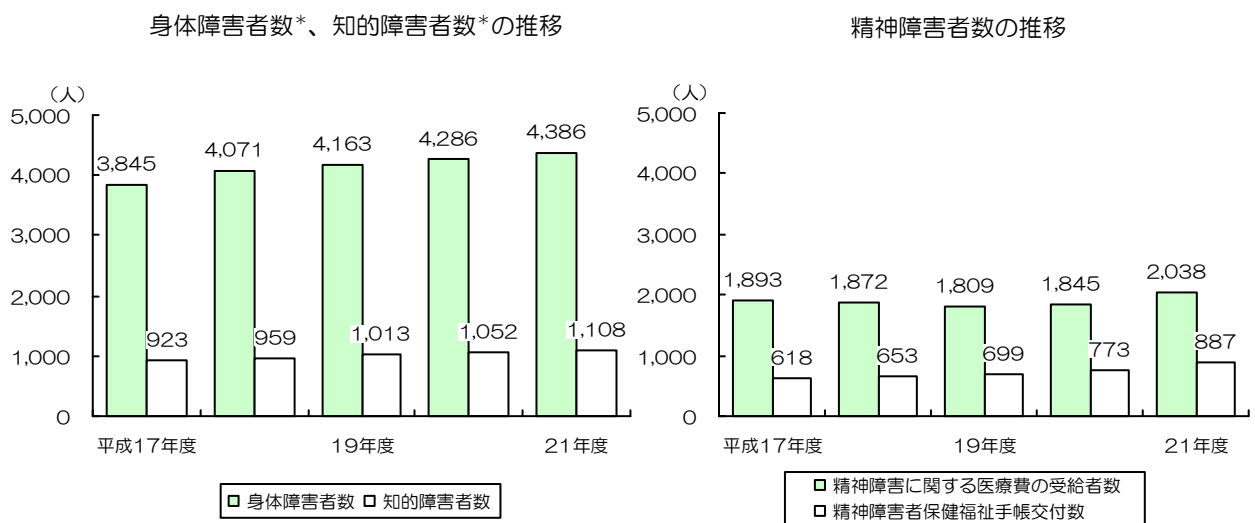
高津区では、共同住宅に居住している人は年々増加し、平成20（2008）年には77.7%となっています。



資料：「総務省統計局 住宅・土地統計調査」を基に作成

⑥ 身体障害者数、知的障害者数、精神障害者数 <障害者数の増加>

高津区の身体障害者数、知的障害者数、および精神障害者保健福祉手帳の交付数はいずれも増加しています。平成21（2009）年度は、身体障害者が4,386人、知的障害者が1,108人、精神障害者（精神障害者保健福祉手帳交付数）が887人となっています。



資料：「川崎市統計書 心身障害者の概況」

資料：「川崎市健康福祉年報」

*身体障害者数：身体障害者手帳交付数
 *知的障害者数：判定機関における知能検査判定結果の最重度、重度、中度、軽度の総数

2 区民が抱える生活課題

(1) 高津区区民生活に関わるニーズ調査結果から見える課題

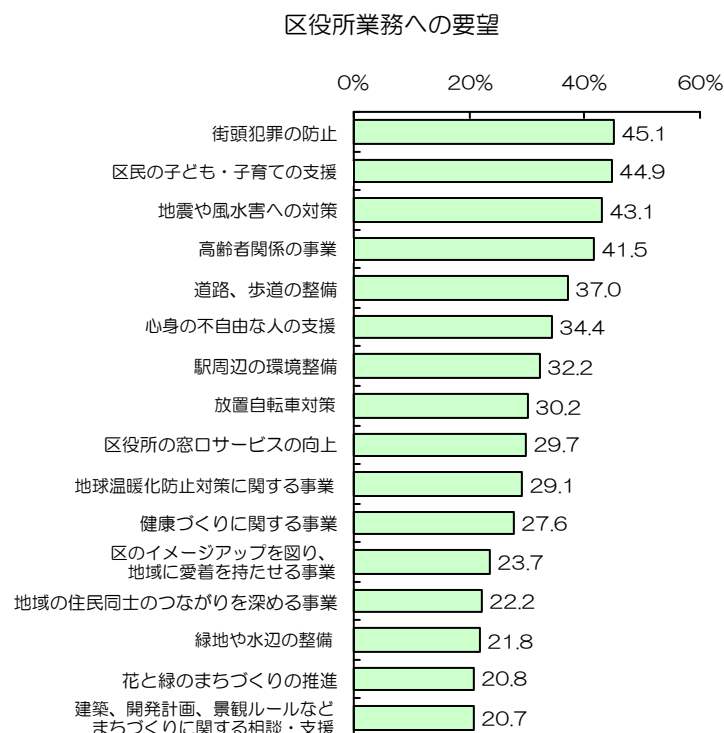
平成21（2009）年8月～9月に行われた「高津区区民生活に関わるニーズ調査」の結果から、地域福祉に関わる課題として、高齢者、子ども、区民同士のつながり、区からの情報提供に対する課題が見られます。これらの課題は、地域住民の交流の少なさや他人への無関心さを示すものであり、また、情報媒体の多様化に取り組む必要があることを示しています。

高齢者の状況や生活を把握し、ひとり暮らし高齢者の閉じこもりを防ぐこと、子ども同士や保護者同士の交流を促進すること、地域住民同士のつながりを深め、地域の力を高めることが必要です。また、区からの情報を様々な媒体を使って流すことで、あらゆる人に情報を伝え、取組に参加してもらうことが重要です。

●区役所業務への希望について

区役所業務への希望について、「街頭犯罪の防止」「区民の子ども・子育ての支援」「地震や風水害への対策」「高齢者関係の事業」で4割を超えています。平成18（2006）年度の調査と比較すると、「高齢者関係の事業」が6位から4位へ、「心身の不自由な人の支援」が9位から6位へ順位が上がっています。

このため、子育て支援、高齢者支援、障害者支援が望まれているといえます。

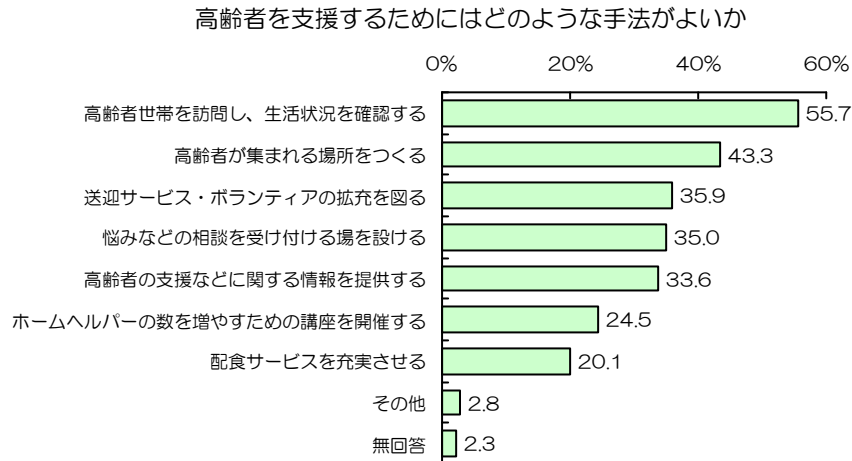


※項目数が多いため、20%以下は省略しています

●高齢者支援について

高齢者を支援するための手法として、「高齢者世帯を訪問し、生活状況を確認する」「高齢者が集まれる場所をつくる」等が挙げられています。

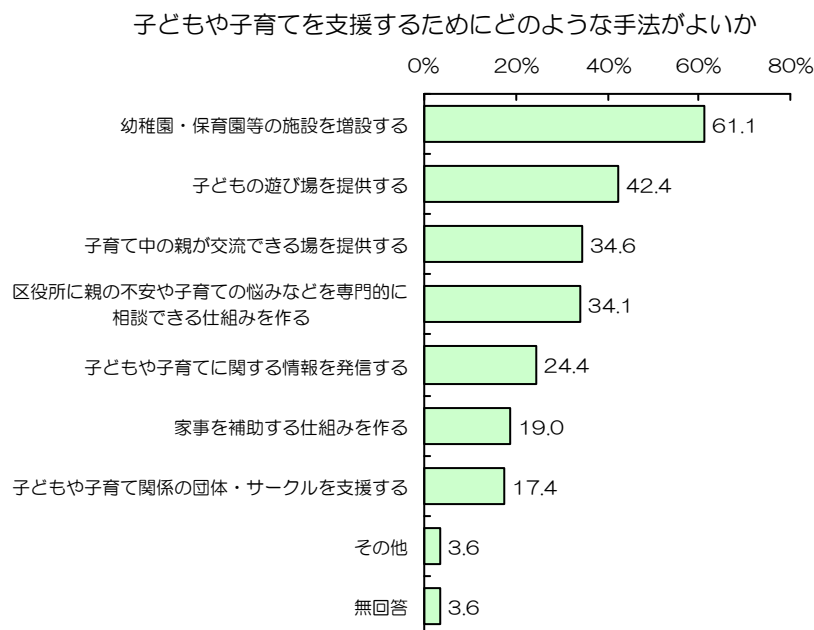
高齢者の状況把握や、それにつながる他の人との交流の機会をつくる必要があります。



●子育て支援について

子どもや子育てを支援するための手法として、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」「子どもの遊び場を提供する」「子育て中の親が交流できる場を提供する」が挙げられています。

子どもだけではなく、その保護者への支援も求められています。

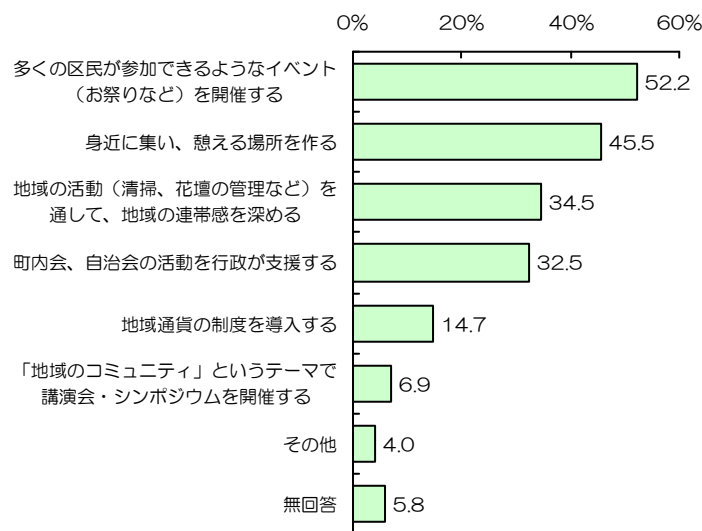


●地域住民のつながりについて

地域住民のつながりを深める手法として、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」「身近に集い、憩える場所を作る」「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」が挙げられています。

つながりを深めることのできる機会や場の提供、自分が住んでいる地域での活動が求められています。

地域の住民同士のつながりを深めるにはどのような手法がよいか

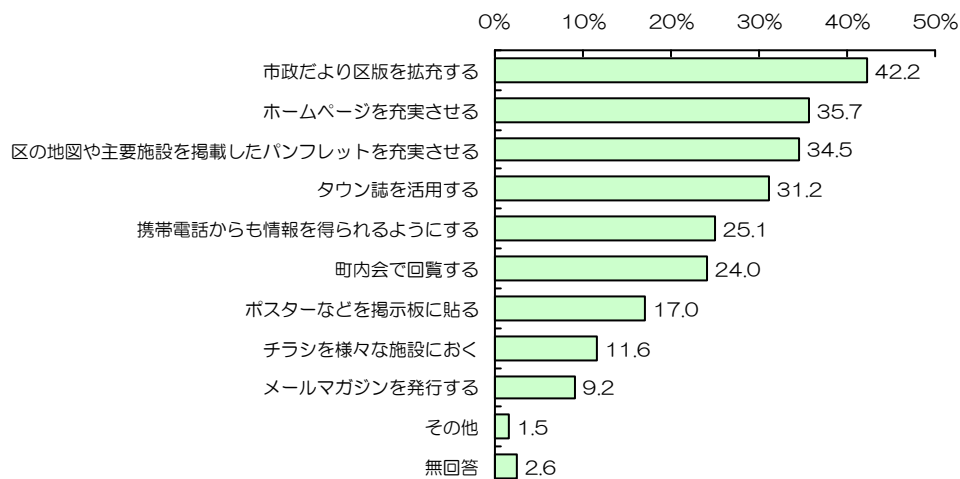


●区からの情報提供について

区の情報を提供するための手法として、「市政だより区版を拡充する」「ホームページを充実させる」「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」が挙げられています。

これらの媒体を通じて情報を流すことと、情報提供の充実が望まれています。

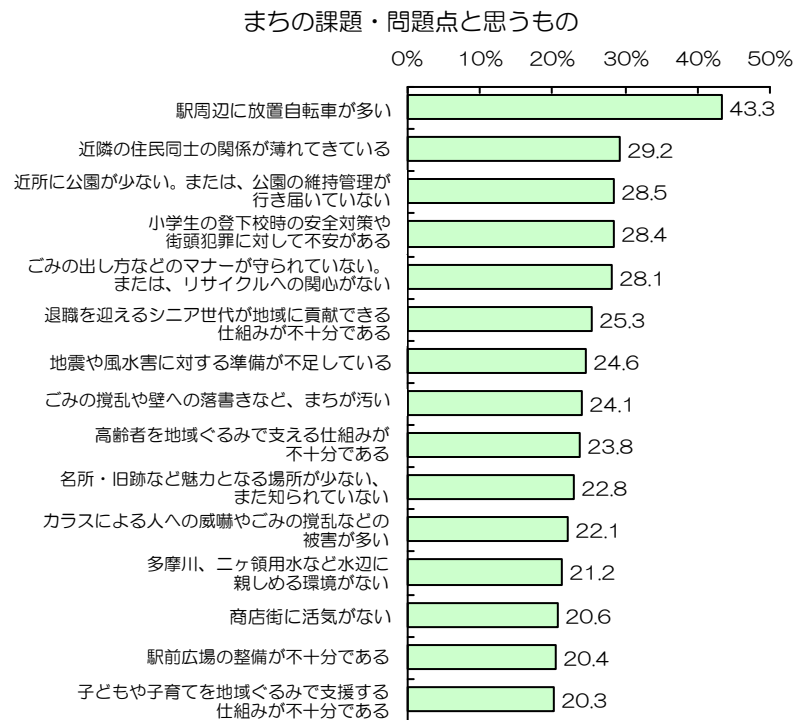
区の情報を提供するためにはどのような手法がよいか



●まちの課題・問題点について

まちの課題・問題点として、「駅周辺に放置自転車がが多い」「近隣の住民同士の関係が薄れてきている」「近所に公園が少ない。または、公園の維持管理が行き届いていない」が挙げられています。

近隣の住民同士の関係が薄れてきていることは、地域力の低下につながるため、地域コミュニティを活性化する必要があります。地域のつながりや助け合いの充実など、地域力を高めるためにも地域福祉の推進が必要です。



※項目数が多いため、20%以下は省略しています

(2) 第2回川崎市地域福祉実態調査（高津区集計）から見える課題

平成22（2010）年2月～3月に行われた「第2回川崎市地域福祉実態調査」のうち、「地域の生活課題に関する調査」と「地域福祉活動に関する調査」の高津区のみを集計結果からは、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」結果と同様の高齢者、子ども、障害児・者、地域のつながりに対する課題に加えて、情報、相談に対する課題も見られます。

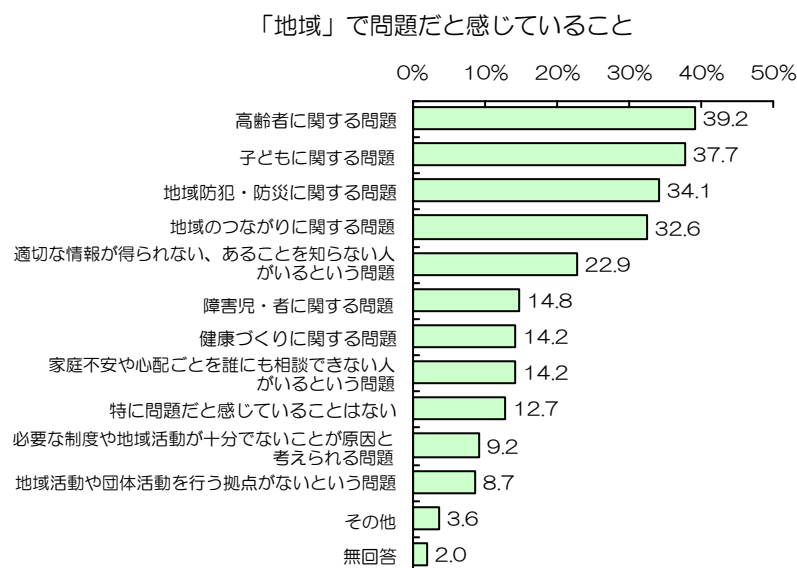
情報や相談における課題は、これまで情報やサービスが行き届かなかった人への対応や、情報やサービスの周知、相談体制や支援の充実に取り組む必要があることを示しています。

1 地域の生活課題に関する調査

●「地域」で問題だと感じていること

「地域」で問題だと感じていることとして、子ども・高齢者・障害者に関する問題や、地域防犯・防災に関する問題が挙げられています。

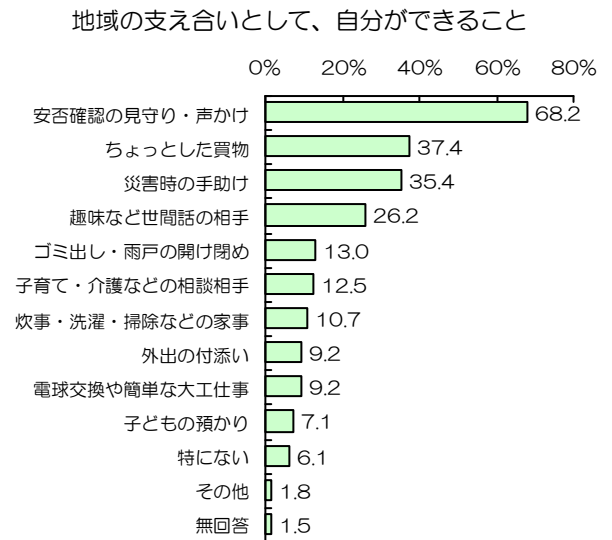
また、これらの問題に関連する地域のつながりや情報提供に取り組む必要があることが示されています。



●地域の支え合いとして、自分ができること

地域の支え合いとして、自分ができることとして、「安否確認の見守り・声かけ」「ちょっとした買物」「災害時の手助け」等が挙げられています。

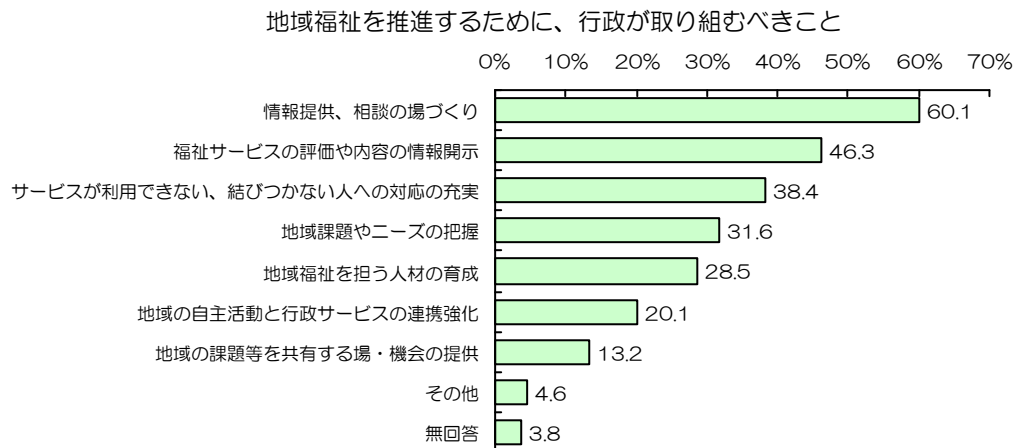
これらの支え合いを行うには、普段から住民同士の交流を深める必要があります。



●地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこと

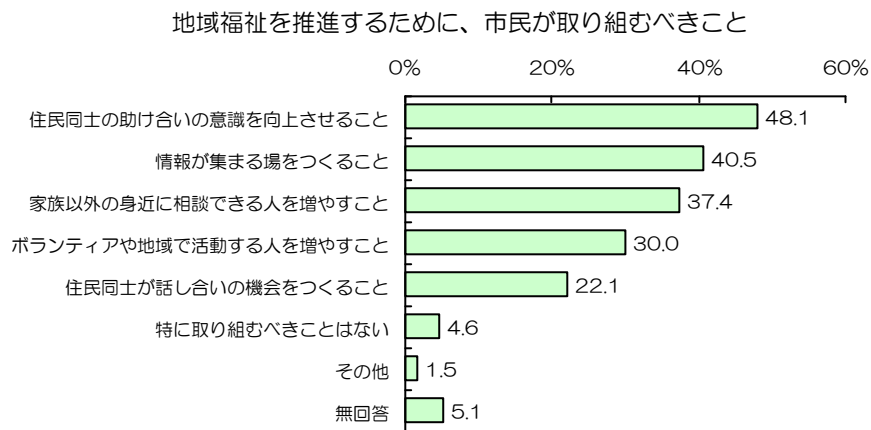
地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、「情報提供、相談の場づくり」「福祉サービスの評価や内容の情報開示」「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」が望まれています。

あらゆる人に情報が行き渡り、福祉サービスの対象者・非対象者にかかわらず相談等が行えるような取組が必要です。



●地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこと

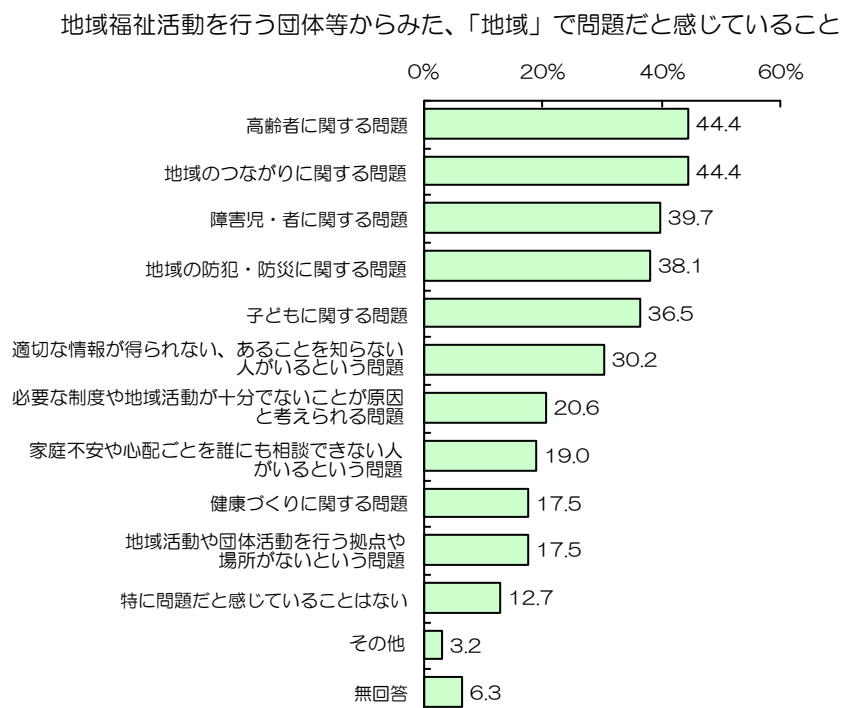
地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、「住民同士の助け合いの意識を向上させること」「情報が集まる場をつくること」「家族以外の身近に相談できる人を増やすこと」が挙げられています。



2 地域福祉活動に関する調査

●地域福祉活動を行う団体等からみた、「地域」で問題だと感じていること

地域福祉活動を行う団体等からみた地域における問題点として、「高齢者に関する問題」「地域のつながりに関する問題」「障害児・者に関する問題」が挙げられており、取組が求められています。



3 第2期計画の取組事例

高津区内では、町内会・自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会等様々な小地域を単位とした地域福祉活動が行われています。

これらの活動は、各地域の特性に応じて、そこに暮らす区民自らが考え、自ら運営している活動であり、“地域力”の一つのバロメーターになっています。

第2期計画では、このような小地域や自主グループによって行われている地域福祉活動を支援していくという視点から「高津区地域福祉活動キラリ☆事業」に取り組みました。



● 詳しくは、高津区役所のホームページを御覧ください。

【ホームページアドレス】

<http://www.city.kawasaki.jp/67/67soumu/home/takatu/tukurou/hukushikeikaku/index.html>

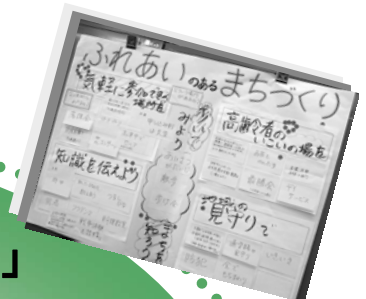


御近所のお知恵拝借、「それいいね！」

～笑って、聴いて、井戸端会議～（平成21年度）

♪つながる、つなげる、ヒントをさがそう♪（平成22年度）

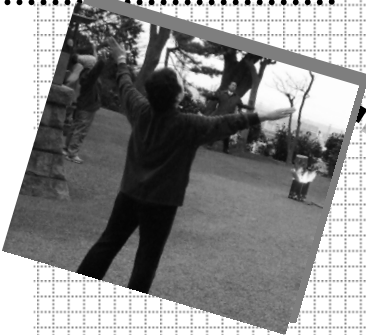
それいいね！福祉のまちチャレンジ事業の発表会を行い、御近所のアイデア「それいいね！」を探し、共有するために地域の輪づくりのヒントや活動のきっかけについて、情報を交換しました。



久本薬医門公園 高津公園体操
〔久本薬医門公園管理運営協議会公園体操世話人会〕



ラジオ体操〔日ノ出会〕



メモリーサロン
〔特定非営利活動法人ぐるーぷ麦〕



それいいね！福祉のまちチャレンジ事業

他の地域で活動の参考となるような地域福祉活動を紹介し、「それいいね！」という地域福祉活動が広まっていくように取り組みました。

読み語り〔久末・読み語りの会〕



おやじの会
〔東高津中学校区おやじの会〕

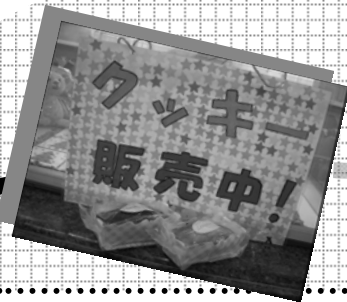


悠友館のおはなし会〔悠友館〕



3A（サンエー）運動
〔高津第4地区民生委員児童委員協議会〕





地域のささえあいで作られるものづくり空間〔あかしあ園〕

転倒予防体操グループ
〔明石穂きり会〕



毎月楽しくつどえる場
〔あじさい会〕



遊びの中で親子が学ぶ場
〔ヤンチャリカ幼児クラブ〕



地域福祉活動レポート「たかつハートリレー」

地域福祉活動を現地取材し紹介しています。取材された団体が、次の団体取材することで、交流の機会にもつながるように取り組みました。

拡大写本を弱視のみなさんへ
〔ルーペの会〕



子育て世代を地域とつなぐ場
〔めばえ会〕



子どもたちを育む絵本の広場
〔パークシティおはなしの森〕



笑顔あふれる交流の場
〔あおぞら会〕

